秋田県の話題

国勢調査 人口減少率は秋田が1位

総務省が5月29日発表した2025年国勢調査の速報値で、東北6県の人口は808万3011人だった。前回の20年調査から50万人ほど減り、減少率は6.2%となった。2000年調査以降で最も大きい減少幅で、東北の人口減少が加速している。県別の減少率は秋田県が8.1%で、全国で一番大きかった。青森県が7.9%（全国ワースト2位）、岩手県と山形県が7.0%（ともに同3位）福島県が6.6%（同6位）、宮城県が3.2%（同35位）と続いた。市町村別の減少率では青森県今別町が19.0%に達し、同県佐井村も18.1%と大きかった。

仙台市を軸とする仙台圏や、原子力発電所に関係する地域では人口が増えた自治体もあった。20年からの5年間で仙台市は2万4707人増えた。仙台に近い宮城県名取市や同県富谷市も人口が微増した。

使用済み核燃料の再処理工場が立地する青森県六ケ所村は2366人増えた。原発事故があった福島県浜通り地域でも人口増がみられた。避難指示の解除などにより、楢葉町や富岡町、大熊町、浪江町は500人以上増えた。

2025年の国勢調査速報値によると日本の人口は1億2304万人、直近5年間で309万人減となっている。（日本経済新聞より）■

「元気な木に育ってね」 スギ伐採跡地に 児童らが植樹

6月、秋田県北秋田市の森林ボランティアグループ「グリーンメイク」（本城谷多加志代表）の広葉樹植樹活動が、同市米内沢のスギ民有林伐採跡地で行われた。

メンバーと高校生、小学生、協賛企業、地域住民など約50人が、アオダモやオオヤマザクラなどの苗木計240本を植えた。（秋田魁新報より）■





2026あきた総文祭 「忘れられない夏に」

第50回全国高校総合文化祭（総文祭）「あきた総文祭」は7月26日に開幕し、秋篠宮様ご夫妻出席の下、秋田市のあきた芸術劇場ミルハスで総合開会式が行われた。

8月1日までに県内で演劇や吹奏楽、写真、放送など22部門が行われ、県内外の生徒たちが芸術文化の輪を広げながら、忘れられない夏の思い出を刻むことを誓い合った。

総文祭は「文化部のインターハイ」と呼ばれる高校生による国内最大規模の芸術文化の祭典で、本県開催は昭和56年度以来45年ぶり2回目。県内8市を会場に演劇や吹奏楽、写真、放送など規定19部門と、県独自で開催する茶華道など協賛3部門を行う予定。県内外から約2万人の高校生が参加し、観覧者などを含め10万人の人出が見込まれている。■

マスコットキャラクターの名前は？

あきたぽ



秋田犬の妖精で、なまはげのツノを持つ。子供に見えるが年齢不詳。人なつっこい性格で、マイペース。寒がりなので、夏でも秋田の稲わらを使ったミノボッチと雪ぐつを身にまとっている。極度の恥ずかしがり屋で言葉が少ないが、秋田弁で、かつ語尾に「ぽ」が付くらしい。好きな食べ物はきりたんぽ。

7月1日は「じゅんさいの日」 小中学校で特別給食

秋田県三種町の全6小中学校で1日、町特産のジュンサイを使った特別メニューの給食が提供され、児童生徒が地元の旬の味を楽しんだ。町が7月1日を「じゅんさいの日」としてPRしていることにちなんだ恒例の企画。■



東能代駅で流しジュンサイ

秋田県三種町特産のジュンサイをPRしようと、町や生産者らでつくる「町森岳じゅんさいの里活性化協議会」とJR秋田事業本部は6月30日、JR東能代駅で「流しジュンサイ」の体験イベントを開いた。

イベントは五能線の観光列車「リゾートしらかみ」2号と3号の乗客ら向けに実施。駅のホームに長さ約7メートルの流し台が設置され、東能代駅に停車する数分間の間、乗客がつるつるとしたジュンサイに苦戦しながら箸でつかみ取りに挑戦。取ったジュンサイに青しそドレッシングをかけて味わった。（秋田魁新報より）■

